

# 小学校教員養成における読書日記指導の実践と評価

—ダイナミックスキル理論をもとに—

細 恵 子\*

(2023年12月22日 受理)

## Practice and Evaluation of Reading Diary Instruction in the Training for Elementary School Teachers

—Based on Dynamic Skill Theory—

Keiko HOSO\*

The purpose of this study is to explore the potential for quantitative and qualitative evaluation based on Dynamic Skill Theory, through the study of the reading diaries of two university students. Based on what was described in two reading diaries, the study clarified the states of 'intercoordination,' 'compounding,' 'focusing,' and 'substitution' (both quantitative and qualitative transformations) among the five principles of Dynamic Skill Theory. In the future, it will be necessary to further concretize the reading skill as defined by the author, using the five principles as a reference, and to establish clear criteria and perspectives of evaluation for students.

**Keywords:** Reading diary 読書日記, Dynamic skill theory ダイナミックスキル理論, Five principles 5つの法則, Quantitative and qualitative evaluation 量的・質的評価

### 1. 問題の所在

細 (2023) では、大学の初年次授業における読書指導の先行研究・実践を取り上げ、成果と課題を考察した。東城ら (2022)、峰本 (2022) では、読書意欲を高めることはできたものの、読書の習慣化までには至っていないという課題が残されている。山田 (2013)、牧 (2015) では、量的な評価はできたが、質的な評価ができていないという課題が見られる。篠崎 (2022) では、大きな変容のあった大学生・グループの質的評価はできているが、変化があまり見られなかった大学生・グループの質的評価はできていないとされている。一方、足立 (2020) は、ボランティアの大人 (大学生) と小学生が5つのジャンルの本を読んで手紙の交換をする手法 (アメリカの In2Books<sup>1)</sup>) を用いており、In2Books のループリックをもとに、12名の小学生の手紙を1年間通して質的評価している。手紙の評価は、7項目 (「本についてのコミュニケーション項目」3項目と「言葉や文章構成の使用」4項目) についてそれぞれ6段階のループリックをもとに行われており、多様な視点からの評価は注目できる。しかし、一人一人の変容のプロセスについては具体的に示されていない。

以上の先行研究の成果と課題を踏まえ、細 (2023) では、能力の成長に焦点を当てて量と質の成

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科准教授

長サイクルを示しているダイナミックスkill理論を援用し、2022年度大学2年生前期の専門科目「国語」で、自らが小学校教員として7年間実践してきた読書日記指導を行った。読書日記は、細（2021）で示したように、小学校低学年から高学年まで、年間を通じて継続することにより、読書習慣、読書意欲・態度、読書技術を高めることができた言語活動である。教師が児童のできた読み方や良い考え方について肯定的なコメントを書き続けることにより、児童の自己評価力が高まっていった言語活動でもある。細（2023）では、これまで自らが定義した読書力と、ダイナミックスkill理論に基づき、1名の大学生（2年Aさん）が、授業科目のテキストとして指定された本（齋藤孝（2015））を読んでどのような読書力を身に付けていったかを量的・質的に評価した。

<b>読書技術</b>
①読書設計力
・自分に合った読書スタイルを見付ける。読書環境をつくる。（収納、読書空間）
②選書力
・レビューを見て本屋に行って確かめ、選ぶ。
③読解力（情報の取り出し）
・感銘を受ける文、疑問に思う文に着目する。
④読解力（解釈）
・他の事例を理由として自分の考えをもつ。著者の立場で考える。
・抽象的な言葉に着目して自分の考えをもつ。一般化して考える。
⑤読解力（人物や作品に対する「熟考・評価」）
・著者の性格や考え方を多面的に捉える。著者の考え、表現を共感的・批判的に読む。
⑥読解力（自分と関連づける「熟考・評価」）
・自分のしたことだけでなく、自分の周りの人の出来事とも関連づける。
⑦活用力
・共感したこと、理解したことを実際に試してみる。習得したことを他の本や場面で活かす。
<b>⑧読書活動に対する意欲・態度</b>
・これまで興味のなかった本や新聞記事、紹介された本を読むことにも挑戦しようとする。
・様々なジャンルの本を読むことに挑戦しようとする。
・自信をもち、次の読書に挑戦しようとする。1冊の本を読み切る。
・本や読書活動の良さを理解する。著者に対する親近感をもつ。
その他。
○本の内容や課題に応じて必要な力を選び出す力
○本を通して人と交流する力

図1 筆者が定義する読書力の具体化（大学生の場合）  
（細 2023）

その結果、筆者が定義する読書力（図1 ①～⑧）がさらに具体化されるとともに、新たな種類の能力へ変容することや新しい種類の能力が生まれることを捉えることができた。

しかし、細（2023）では、学生1名の変容を捉えた研究となっており、大学生の全体的な成果を示すことができていないこと、大学生が自ら本を選び、意欲的に読むことができる実践ではないことが課題として残された。そこで、本研究では、2023年度に他の2名の大学生（3年生）が自分の意志で本を選んで書いた読書日記を対象とし、Aさんと同様に、ダイナミックスkill理論をもとにした量的・質的評価の可能性を考察することを目的とする。

## 2. ダイナミックスkill理論に基づいた評価の課題と可能性

加藤（2017）では、カート・フィッシャーが提唱する能力の成長に関する5つの法則（①「統合化」②「複合化」③「焦点化」④「代用化」⑤「差異化」）が紹介されている。

「統合化」は、「今自分が持っている複数の能力が結びつき、現在の能力レベルから新たなレベルへの成長を説明する法則」(p. 111)であり、次の高いレベルの能力へ移行するという質的な成長を意味する。「複合化」は、「今自分が持っている複数の能力が現在のレベルの中で組み合わせられて、より高度な能力を獲得することを説明する法則」(p. 111)であり、現在の能力レベル内での量的な成長を意味する。「焦点化」は、「ある課題をこなすために必要となる能力を、即座に選び抜くことを可能にする法則」(p. 112)である。「代用化」は、「ある能力を一般化させて他の課題に対して活用する、あるいは他の状況内で活用する際に発揮される法則」(p. 112)である。つまり、活用する力と言える。「差異化」は、「ある能力がより細かな能力に細分化される際に発揮される法則」(p. 112)である。「統合化」と同時に起こるとされている。つまり、「統合化」が起こることにより、構成されているのの一つ一つの能力も高まるということである。

細(2023)では、Aさんの読書日記から、新たな能力レベルへ質的に変容する「統合化」と新しい種類の能力を生み出し量的に変容する「複合化」を捉えることができたが、明確に区別することが難しい場合もあった。必要な能力の選択を行う「焦点化」と能力の活用を行う「代用化」、統合化と共に起こる「差異化」については明確に捉えることができなかった。読書日記の実践は、4月から9月までの半期で行うものであったため、大きな変容や多様な変容は見られなかった。しかし、ダイナミックスkill理論の5つの法則をもとにすることにより、評価の視点が明確になり、学生の記事を量的・質的両面から評価していく可能性を示すことができた。また、1つの能力を身に付けるためにどのような力を身に付けることが必要なのか、どのような力の組み合わせが必要なのかを明確にすることもできた。

### 3. 研究の方法

本研究は、広島女学院大学の倫理審査委員会で承認を受けた研究である(2023年4月11日審査番号2022-14)。

本研究では、15回の授業期間中に、以下のように読書日記指導を取り入れた。

①授業科目：3年前期「小学校国語科教材研究」

②対象：小学校教員を目指す大学生8名(前年度の前期「国語」の受講生)

③指導の流れ

- ・1回目の授業で、学生に本研究の内容と方法について説明し、研究の同意書を配布した。
- ・図書館司書の協力を得て、学生に推薦する新書の4つのサイトを紹介し、学生が自由に選書することができるようにした。
- ・前年度の授業科目「国語」に引き続き、前期の間(4月～7月)、短くてもよいので、読んだところまでの感想を家庭で読書日記に書くことを伝える。
- ・毎時間、読書日記を提出し、筆者が学生のできている読み方や考え方の良い点についてコメントを書く。
- ・授業の初めに、参考になる読み方や考え方を読書日記の中から紹介する。

本稿では、研究結果公表の同意を得られた学生のうち、「統合化」「複合化」「焦点化」「代用化」が表れた2名(BさんとCさん)の読書日記を取り上げる。

#### 4. 大学生の読書日記の考察

以下は、学生（BさんとCさん）の書いた感想である（紙幅の関係で一部省略、改行なし、下線は筆者による）。※は、筆者の捉え、考えである。〈 〉は、筆者が定義する読書力を指す。

##### （1）Bさんの読書日記

第1回目と第2回目は、『博士の愛した数式』を読んで書いた感想である。

○第1回目 5月9日

数式を愛している博士は特に「 $\sqrt{\quad}$ （ルート）の意味は重要な地位を占める」と言う。「なぜ重要なのか」と思っていると理由が分かった。それは $\sqrt{-1}$ （ルートマイナス1）について考えた時、博士の息子は「そんな数はないんじゃないでしょうか。」と答える。だが、「世界の成り立ちは数の言葉によって表現できると信じていた」博士は、「とても遠慮深い数字だからね、目につく所には姿を現せないけれど、ちゃんと我々の心の中にあってその小さな量まで世界を支えているのだ<sup>①</sup>」と $\sqrt{-1}$ （ルートマイナス1）について話す。ここから、私は、言葉の意味は正直分からなかったが、ただの「 $-1$ 」では世界を支えることはできないが、 $\sqrt{\quad}$ （ルート）があることで目につく所には姿を現さないが、「世界を支えている」という博士の世界観を知ることができる場面だったと思った<sup>②</sup>。

※Bさんは、意味は分からないが、著者が述べている下線部①を、②の中で繰り返し表現し、博士の「世界観」だと捉えた。ここでは、主に、根拠となる文章を取り出し〈読解力（情報の取り出し）〉、分かったことを述べている。

○第2回目 5月15日

読み進めると、博士は80分しか記憶がもたないということを知った。博士自身、記憶が80分しかもたないことを知っており、大事なことは忘れないように服にメモ帳を安全ピンで止めていた。家政婦がご飯について博士に話しかけた所、博士に「数字と愛を交わしているところにずかずか踏み込んでくるなんて、トイレを覗くより失礼じゃないか君」と大きな声で言われ、博士の邪魔をしないようにと息をするのにも細心の注意を払っていた。そんなある日、夕飯を食べている博士の袖に小さい文字で「新しい家政婦さん」という家政婦さんの似顔絵が描かれたメモを貼っているのを見つけて、一日中数字のことを考えている博士が覚えている80分間のうちに家政婦さんについて時間を割いたと分かった場面は博士について印象が変わった。最初は、数字のことばかり考えており、それ以外に興味がなく、無関心で人に対して冷たい人だと思っていたが、家政婦さんのことを忘れないようにとメモを残した博士の行動はただ数字を愛すばかりに人との関わり方が不器用なだけなのではないかなと感じた<sup>③</sup>。

※下線部③では、人物の別の行動に着目し、冷たい性格ではなく不器用なところがあると捉えている〈読解力（解釈）〉。人物の行動や心情について読み取ること、場面と場面を関連づけることにより、人物に対して否定的な見方・表面的な見方から肯定的な見方へ変化したことがうかがえる。これは、一人の人物の捉え方が広がるという意味で量的な変容であり、ダイナミックスkill理論の「複合化」が考えられる。

○第3回目 5月21日 『20代にとって大切な17のこと』

20代にとって大切な17のことの5つ目は、『「人間関係が幸せのカギ」を知る』だった。私は高収入であれば、いくら職場が最悪でも働くことができると思っていた。だが、この内容を読んで人間関係がどれだけ人生において重要なのか気付かされた。

※第3回目から読む本が『20代にとって大切な17のこと』に変わったため、Bさんに話を聞いたところ、最初の本を読み進めていながら他の本も探し、この本を読むことに決めたそうである。

※短い文章であり、話の内容は具体的に書かれていないが、高収入を得ることよりも人との関係が、働く幸せにつながることを理解したようである。第2回目の読書日記では、人物に対する見方が変わったが、第3回目は、抽象的なこと（幸せ）に対する考え方が広がったと考えられる〈読解力（人物や作品に対する「熟考・評価」）〉。

○第4回目 5月23日

20代になり、漠然とした不安を抱えている今、将来に向けて後悔をできるだけ少なくしたいと思い、この本を選んだ<sup>④</sup>。充実した20代を過ごすためには何をしたらいいのかを知っておくといいのかなど知識が大切だと感じた。そして、今、私が過ごしている時代はころころと「正確」や生活環境が変わるためそれに順応していくことが求められていると分かった。

※下線部④では、選書の理由が述べられている。自分の生き方を考えるために、自分と重ねて考えられる本を選んでいる〈選書力〉。

○第5回目 5月30日

30代からはパートナーも仕事も変化をし続けていると、落ち着きがない人という認識になるが、同じことを20代がしたら、「そんなもんだ」と許されると知り、確かにそうだと感じた。今の自分は、保守的な部分が多く、「したいけどしない」という行動が多い<sup>⑤</sup>。今の自分にしかできないことだってあると気付かされた<sup>⑥</sup>。

※下線部⑤のように、自分を素直に振り返っている〈読解力（自分と関連づける「熟考・評価」）〉。

そして、下線部⑥で気付きを加えている。ここまでの感想で、自分と異なる著者の考え方を理解することとそれらを基に自分の生活を振り返ったことにより、今の自分について気付きが生まれたと考えられる。これは、自分に対する見方が広がるという意味で、量的な変容であり、ダイナミックスキル理論の5つの法則の「複合化」に当たると考えられる。

○第7回目 6月12日

20代にとって大切な17のことの4つ目は、「自分の才能を見つけ、自分で育む」という内容だった。才能は誰しもがもっているが、才能が発揮されないのは「花」（チャンス・挑戦）、「熱量」（やる気）、「養分」（周りの環境・資産）の3つがそろっていないからであると知った。この中で個人的に色んなことをしてみたい、経験したいという気持ちがある反面、挑戦することに奥手なため、色々なことに挑戦していきたいと思う<sup>⑦</sup>。

※下線部⑦のように、複数の自分（積極的な思いをもつ自分と消極的な自分）があることを踏まえ

た上で、第5回目よりも前向きな気持ちが表れている〈読解力（自分と関連づける「熟考・評価」）〉。ここでは、著者の考えを理解することと自分の多面性を認めることにより、自分に対する考え方が積極的になってきており、「複合化」にあたると考えられる。

○第8回目 6月27日

20代にとって大切な17のことの7つ目は、「プラスとマイナスの感情のパワーを知る」であった。今までネガティブな感情は悪い事だと思っていた。ネガティブな事はあまり考えないようにしてその感情から逃げていた<sup>⑧</sup>。だが、このネガティブな感情を認めることで、抑圧されているネガティブな感情がいつか爆発することがなくなり、怒りや妬みが自然と消えていくと知った<sup>⑨</sup>。自分の感情をコントロールする方法の1つなのだと新しく学ぶことができた<sup>⑩</sup>。

※第2回目と同様に、否定的な考え方から肯定的な考え方に変化している。下線部⑧では、これまでの自分の否定的な考え方〈読解力（自分と関連づける「熟考・評価」）〉、下線部⑨では、自分と反対の肯定的な考え方との出会い、下線部⑩では、新しい学びについて書かれている。第2回目の感想と異なることは、自分についての考え方の変化である。著者の考え方に納得すること、これまでに他者を肯定的に捉えることができたことにより、自分のマイナス感情も肯定的に捉えることの必要性を素直に感じる事ができたと考えられる。著者の考え方を自分自身にも広げるという意味では、考え方の量的な変容「複合化」だと捉えられるが、考える対象が本の人物や著者から自分へと変化したところからは、質的な変容として「統合化」として考えたい。

○第10回目 7月11日

20代にとって大切な17のことの12個目は「家族について考える」というものだった。この中で「兄弟姉妹との関係が仕事にも影響している」という内容は、私の中で共感できない所があった<sup>⑪</sup>。それは、『「兄弟姉妹とつながること」は、仕事上の人間関係を構築していくときに、影響が出る大事なポイント』だの言葉だ。読み進めてみると筆者は「たとえば、兄や弟と仲が良くない人は、男性の同僚や先輩、後輩とつながるのが下手な人が多いのです」と述べている。私はこれを読んで、「言い過ぎではないか」と感じた。兄弟姉妹間が悪くても、他者と関係を築くのが上手な人はたくさんいると思う<sup>⑫</sup>。今までは、筆者から学ぶことが多かったが、今回は筆者の考えに納得することができなかった。

※これまでは、著者の考え方に納得することが多かったが、第10回目では、下線部⑪⑫のように批判的に読んでいる。明確な理由は書かれていないため、Bさんに直接聞いてみると、自分や周りの兄弟関係と比較した場合、著者が考えていることと同じことが起こるわけではないと思ったそうである。根拠を明確にして自分の考えを書くことと自分・周りの人と関連づけをすることにより、批判的な読み方ができるようになったと考えられる。これは、納得する読みから批判する読み方へ質が向上する「統合化」であると考えられる。

○第11回目 7月18日

20代にとって大切な17のことの17個目は『「人生の目的」を考え始める』であった。その中の「宿命と運命をどう考えるか」という内容で、「宿命は文句を言って拒絶するか、黙って受け入れるし



かないのです。でも、人生は、自分の意思で変えていくことができます。」という言葉にとっても惹かれた。自分の今いる現状や環境に納得することができなくても、そこで自分の起こす、行動によって、良いもの悪いものによって変わっていくため、今の自分に満足することができていないのであれば、満足するものに変えていこうと思った<sup>⑬</sup>。

※下線部⑬では、第7回目と同様、自分の生き方に対して前向きな姿勢が見られる〈読解力（自分と関連づける「熟考・評価」）〉。本を読み続けたこと、著者の考えに納得してきたことにより、自分の在り方を考える力が身に付いてきており、「統合化」だと考えられる。

第15回目の授業の終わりには、各自が読書日記の振り返りを書いて提出した。Bさんの記述は以下の通りである。

#### 読書日記の振り返り

前は本を読んでも「いい話だったな」「面白かった」という何が良かったのか、何が面白かったのかが分からない曖昧な感想で終わっていた。だが、読書日記を書くことによって、感じたこと、思ったことなどは言葉に表すことでしっかりとどのように思ったのか、感じたことを整理することができる力が身に付いたと感じた。また、読書をする際に自分と重ねて読むことを意識して読んだ<sup>⑭</sup>。自分と重ねることで今の自分の状況を客観的に見ることができ、これからどのように行動すると良いのか、どのようなことをしたいのかを具体的に考えることに繋がったと思う<sup>⑮</sup>。（略）特に自分の心に響いたのは「今しかできない」という内容である。以前の私は、「したいけど面倒くさいからしない」「したいけど自分にできるか分からない」など楽を取ったり、自分に自信がなかったりと理由をつけているんなことを諦めていた。だが、この言葉を知って「やってみよう」という気持ちに変わった<sup>⑯</sup>。エピソードとして、先月、知人から水泳のコーチをしないかと誘われた。前の自分なら「6年のプランクがあるからできないだろうからしたいけど諦めよう」と断っていたと思う。しかし、この本を読んで「興味のあること、やってみようことは失敗してもいいから経験になると思ってやろう」という気持ちになり、現在水泳のコーチをしている<sup>⑰</sup>。水泳のコーチを初めて「やっぱり、やってよかった」と思える経験や学びなどをたくさん得ることができた。この本に出会うことができていなければ、今得られている学びはなかっただろう。自分の中で今が人生の中で一番若い時であるため、できる時にやりたいことをせずに、できなくなってから後悔する物が少ない、満足のいく人生を過ごそうと考えるようになった。これらを通して、読書をするために必要な力は2つあると考える。1つ目は自分と重ねて読むことである。自分と重ねて読むことで今や過去の自分と比較することで自分を客観的に見ることができ、新しい自分を知るきっかけになると感じた。2つ目は本を読んで感じたことを言葉に表すことである。言葉に表すことで、自分が感じたこと思ったことが整理されて残る<sup>⑱</sup>ため記憶に残すことができる。他にも、人に伝えることでコミュニケーション能力を育てることに繋がると思う。

※下線部⑭からは自分と重ねる（著者と自分の考え方を比較する、自分の過去を振り返ったり、今の自分を考えたりする）読み方を自分で選んで読むという「焦点化」が表れている。そして、下

線部⑮のように、今後の自分の在り方を考えることができたという実感をもつことができています。下線部⑯では自分の気持ちの変化が表れており、下線部⑰では「代用化」が起こったことがうかがえる。これまで学生たちの感想の終わりは、「・・しようと思う」で締めくくられ、その後のことは書かれていないことが多かったが、Bさんは、本を読んで思ったこと・考えたことを自分の生活に活かすことができています。

※Bさんは、下線部⑱で、感じたことや思ったことを言葉に表すことにより、自分の考えが整理されると述べている。つまり、本を読み通すことと読書日記を書くことを継続することにより、考えを整理する力がついたということである。これは、第11回目と同様に、単に本を読み理解したり解釈したりする力を超えて、積極的な自分の生き方を見出す力に高まっているため、「統合化」と考えられる。

## (2) Cさんの読書日記

次に、Cさんの読書日記を取り上げる。Cさんの読書日記の特徴は、「焦点化」が明確に表れていることである。文中の「筆者」は本の著者を指している。

○第1回目 5月7日

今回ははじめの部分を読んだ。私ははじめの部分を読んで驚いたことがあった。それは、日常生活の中で「なんでだろう？」と疑問に思うことが多い人ほど成績が上がりやすく、東大に合格しやすいことである。筆者がこのような主張していることに対して、初めはあまり納得できなかった。しかし、読み進めていくうちに、東大の入試も日常生活に関する疑問が問題になっていたり、東大に合格する人のほとんどが常に「なんでだろう？」という疑問を持っている人だということを知って、筆者の主張していることは本当なのかもしれないと感じた。また、疑問に思うだけで終わらず、仮説を立てたり、理由を考えたりすること<sup>1</sup>も必要だと主張していた、私はこの本を通して、その力をどのようにすれば身につけることが出来るのか学びたいと思う<sup>2</sup>。

※Cさんは、著者の主張に納得し、下線部2で、下線部1の力を身に付ける方法を学びたいという意欲をもっている〈読書活動に対する意欲・態度〉。

○第2回目 5月14日

今回は「問1なぜ英語の発音は難しいのか？」と「問2なぜブルーベリー農家は東京に多いのか？」の2つの問題と解説、解答例について読んだ。まず1つ目の問いを解くためには、問いの内容をしっかりと調べる、言葉を分解し深堀りする、主観的な言葉を客観的に言い換えるの3つの考え方があると筆者は言っていた。私はその中で主観的な言葉を客観的に言い換えるという考え方に納得した。今回の問いである「なぜ英語の発音は難しいのか？」はあくまで主観的な見方なため、全ての人がそうというわけではないと筆者は言っており、客観的な見方に言い換えると日本語の発音に比べて英語の発音は多様だということが分かった。しかし、日本人以外に英語の発音に苦戦している人はいないのかが気になったので、まずは自分の力で考えてから調べてみたいと思う<sup>3</sup>。この解説では、英語の文字数は日本語の文字数に比べて少ないため、1つの文字で複数の発音のし方をして区別する必要があったと書かれていたので、理由が分かった。また、同じ理



由で海外の方が日本語の発音に苦勞している理由も分かるかもしれないと思った<sup>4</sup>。2つ目の問いを見たときに、まずブルーベリー農家が東京に多いということを知らなかったのが、驚いた。(中略)しかし、この問いを回答した受験生が「生食が多いブルーベリーは、鮮度が重視されるため、輸送の面で有利な関東地方が適しているから」と書いており、少し納得できた。しかし理由はそれだけではなく、人口の多い東京で「観光農園」を実施することで収入をさらに得られることや高級ケーキ・お菓子のお店が多く、提供できるという理由からより納得できた<sup>5</sup>。

※納得しながら読んだ上で、下線部3・4のように、疑問をもち自分で調べたいという思いをもっていることや他の事例について同様に考えようとしていることが分かる。ここでは、第1回目では書かれていた下線部1を試そうとしており、「焦点化」が起こっていると考えられる。

※下線部5では、単に一つの理由に納得するのではなく、問いに対して複数の理由があることにより、説得力が増すことを感じており、「より納得できた」と述べている。

### ○第3回目

今回は、3つ目の問いである「なぜ任天堂の本体は京都にあるのか？」について本を読みながら考えた。私は、任天堂は大きな会社なので、東京にあると思っていた。しかしそれは間違いだったということをこの本によって気づくことができた。自分の固定概念で物事を判断することは良くないということこの本から教えてもらったと思う<sup>6</sup>。解説の一つ目である任天堂が出来た当時に遊ばれていた「花札」と「かるた」を作っていたのが、任天堂で、現在もその伝統を引き継いでいるということは、少し想像することができたが、2つ目の京都は大学が多く、優秀な人材を集めやすいということは全く想像することができなかった。この2つの解説から、本社が東京ではない理由は、一つとは限らず、複数考えられるということが分かった<sup>7</sup>。

※ここでは、理由を考えながら読み進めていることが分かる。そして、下線部6では、固定概念をもつことの問題点に気付いている。また、第2回目では、納得することについて述べていたが、下線部7では、一つの事実には複数の理由があることを理解している。このように、著者の考えに納得することと複数の理由を理解することが組み合わさり、固定概念から脱却することが可能になったと考えられる。これは自分の考え方が新しいものになるため、質の変容として「統合化」が考えられる。

### ○第4回目

今回は「問4なぜ関東地方は人口が多いのか？」と「問5なぜ福岡市は日本で一番人気の街なのか？」の2つの問いについて読んだ。まず一つ目の問いを読んだとき、すぐに経済が発展しているからと考えたが、それ以外の解答は思い浮かばなかった。筆者は、この問いに対して、関東平野が一番大きな平野だからと考えていた。確かに、学校でも関東平野について習ったが、関東地方は他の地方に比べて面積が狭いので、それを理由と考えた筆者の解答に少し違和感を感じた。しかし、読み進めていくと、面積が広いだけでは人口が集まらないということが書かれてあり、納得した。面積が広くても、山や木ばかりでは、住むための土地を確保できないので、日本の中で大きな平野がある関東地方に人が集まると考えた筆者は正しいということが分かった。次に2つ

目の問いを読んだとき、その問いに対して共感した。なぜなら人気な街と聞いて思い浮かぶのは東京の23区の中にある街だったからである。しかし、実際に調べてみると、東京23区の街は10位以内には入っているものの、上位3つの中には入っていなかった。交通便や経済面では他の地方に比べて優れていると思う。それなのに、1位ではなかった理由が分からなかった。しかし、筆者の解答を見て少し納得できた。福岡市は交通便だけではなく、食の中心だから、人気なのだと書かれていた。福岡といえば、有名な食べ物が多いイメージだが、東京は福岡に比べると、有名な食べ物は少ない。それは福岡だけではなく、上位3つの中に入っていた神奈川や北海道も同じ理由で人気なのではないかと思う。人気な街になる基準は交通便や経済面だけでなく、有名な食べ物の多さも含まれるということにこの問いを通して気づくことができた<sup>8</sup>。

※解答を自分で考えて予想すること、違和感を感じていること、納得することをしながら読んでいくところから、本と対話をしている印象を強く受ける。

※下線部8では、第3回目と同様、ものごとには複数の理由があることについて書かれている。

#### ○第5回目

今回は、6つ目の問いである「なぜ『たこ焼き』は大阪発祥なのか？」と「なぜサッカーやラグビーなど、様々なスポーツはイギリス発祥なのか？」について読んだ。(中略)筆者はその理由として「①大阪は食文化の中心で、食べ歩き文化がある。②阪神工業地帯にたこ焼き器を作ることができる工場がある。③昔から多くの韓国人がいて、食文化が融合した。」の3つをあげていた。最初の2つはすぐに分かったが、最後の1つはよく分からなかった。しかし、食文化が発展しているところや食べ歩きができることで有名なところは人が多く集まっていることから、食文化の中心であった大阪に韓国人が集まったのだと考える。もし、私が韓国人だったら食文化の中心で食べ歩きのできる大阪に行って、色々なものを食べたいと思う<sup>9</sup>。次に7つ目の問いについて、私は疑問に思ったことがある。ラグビーと聞くと、ニュージーランドをイメージするが、問いにはイギリスと書いてあり、疑問に思った。今回の問いに対して筆者は「①イギリスは、多くの国と貿易をしていたため、イギリスのスポーツが広まった。②①と同時にイギリスが考えたルールが国際的に広がった。」の2つの理由をあげていた。私は特に2つ目の理由に納得した。なぜなら筆者があげていた例が分かりやすかったからである<sup>10</sup>。筆者は発祥という言葉について考えるときに、ボクシングの例をあげていた。ボクシングがイギリス発祥な理由はルールを考えたのがイギリスだったから。この例を見たときに発祥という言葉は、そこから始まったという意味だけではないということに気づいた。このように、1つの言葉の意味が1つではなく、他の捉え方もあるということのをこれからも忘れないようにしたい<sup>11</sup>。

※下線部9では、単に納得するのではなく、「自分が韓国人だったら」というように同じ立場に立ち、理由を考えている。分からないことについて自分なりに考えているところは、第1回目の下線部1を行っていることになり、「焦点化」だと考えられる。

※下線部10では、文章の分かりやすさについて批評している〈読解力(人物や作品に対する「熟考・評価」)〉。自分で理由を考えると著者が述べている複数の理由について考えることが組み合わさることにより、著者の文章の書き方を批評することができたと考えられる。これは、文章の内

容だけでなく文章の書き方にも注目するようになっていくことから、質の変容である「統合化」が起っていると考えられる。

※下線部11では、言葉の捉え方が広がっていることが分かる。1つの言葉の意味を理解することと複数の具体例や理由を理解することにより、言葉の意味を多面的に捉えることができるようになると考えられる。これは、「複合化」であると考ええる。

#### ○第7回目

今回は10こ目の問い「なぜ日本人は緑色のものを「青」と呼ぶのか?」と11こ目の問い「なぜ「不甲斐ない」という言葉は二重否定なのにプラスの意味ではないのか?」について読んだ。1つ目の問いを見たとき、確かにそうだと納得した。信号機の色は青と言うのに実際は緑色である。しかし、生まれてから今まで青信号のことを緑信号と言ったことはないし、行っている人を見たこともない。私は、読んでいるときに海外の人は緑色の信号機を青、緑のどちらで捉えているのか気になり、海外の信号機について調べてみた<sup>12</sup>。すると、海外でも日本と同じように赤、黄、緑の3色だったが、緑の信号は、「グリーンライト」と呼んでいたため、海外では、見たままの色で呼んでいることが分かった。(略)

※下線部12では、自分で問いをもち、調べる姿勢がうかがえる。これは「焦点化」であると考ええる。

#### ○第9回目 7月2日

今回は、問14の「なぜゴジラは東京タワーを壊すのか?」と問15の「なぜ日本だけで駄菓子文化が栄えたのか?」について読んだ。まず1つ目の問いに対して筆者は「日本は木造建築が主流な上に災害が多いため建物の倒壊に慣れており、『形あるものはいつか壊れる』という思想に親しみがあるから」と解説していた。確かに日本は世界の中でも地震が多い国で、世界唯一の被爆国である。そのため、建物の倒壊は多い。しかし私は、日本には、木造で建てられた世界遺産がたくさんあるため、できるだけ大切に扱い、後世に残していくべきだと思う。そのため、「形あるものはいつか壊れる」という考え方には、あまり納得できなかった<sup>13</sup>。次に2つ目の問いに対して筆者は、「日本は親族のつながりから生まれたお小遣い制度があり、子供が自分の意思でお菓子を買うことができたから」と解説していた。私も小さい頃、お年玉やお小遣いを親からもらっていた。駄菓子は比較的値段が安いので、子供でもたくさん買うことができ、嬉しかったことを今でも覚えている。値段が安く、様々な種類がある駄菓子が海外でも人気なことは納得できる<sup>14</sup>。

※下線部13では、自分の知識を根拠にして自分の考えを述べており、著者の書いた内容を批判的に読んでいくことが分かる。このことから、著者が述べている理由について理解すること、自分の知識・経験をもとに理由を考えることにより、著者とは異なる考えが生まれ、「統合化」が起ると考えられる。

※下線部14では、自分の過去の経験をもとに、著者が述べる理由に納得している〈読解力(自分と関連づける「熟考・評価」)〉。自分と関連づける読み方を選んだことは「焦点化」にあたると考える。

## Cさんの振り返り

○どんなことができるようになったか。できるようになってきているか。  
 自分の体験や具体例を挙げながら感想を書くことができるようになった。読書日記を書き始めた頃は、自分が感じたことのみ書いていたが、他の人の感想を聞いたときに自分の体験や具体例を挙げながら感想を書いており、このような書き方をしていくことでさらに読書日記が良くなっていくという事を知り、そこから自分の体験や具体的な事を挙げながら感想を書くようになった。

○学んだことを他の場面で試してみたか。試そうとしているか。  
 今回読んでいる本に常に疑問を持ち、それについて考えている人は頭が良いという事が書かれていたので、この本を読み始めて普段考えたことがなかったこともなぜだろうと疑問を持つようになり、考えるようになった。

○読書をするためにはどのような力が必要だと思うか。  
一つの視点からではなく、様々な視点から考えながら読む力が必要だと思う。 1つの視点からだけでは学ぶことも少ないが、多様な視点から考えることで色々なことを学ぶことが出来るようになるからである。

※ Cさんは、下線部が示すように、自分の体験や具体例を挙げながら感想を書くこと、疑問をもち、自分なりに考えることができるようになったと述べている。これらの力は、他の文章を書く際にも生きて働く力である。例えば、Cさんは、卒業研究において、インクルーシブ教育について調べてきたが、複数の論文と本を読む中で疑問をもち、「インクルーシブ教育がめざしている教育とはどういった教育なのかについてもう少し詳しく調べる必要があると考えている。」と述べている。そして、すぐに納得するのではなく、疑問に思ったことを調べていく習慣がついてきたのである。これは、「焦点化」であるとともに、読書日記を書くことを通して身に付いた力を別の場面で活用する力でもあり、「代用化」が起きていると考えられる。

## 5. 研究の成果と課題

### (1) 成果

BさんとCさんの読書日記の記述から、筆者が定義する読書力（図1）の中で身に付いている力を見出すことができるとともに、ダイナミックスキル理論の法則に基づく場合、どのような力を身に付けることができるのか、どのような力の組み合わせでどのような読み方や考え方ができるようになっていくのかも捉えることができた。本研究の具体的な成果は以下の2点である。

#### ①「統合化」と「複合化」

「統合化」と「複合化」の明確な区別が難しいという細（2023）の課題を改善し、本研究では、読書感想において以下のように区別することができた。

「統合化」は、異なる質の読み方や考え方ができるようになること、考える対象の変化が起こること、質の高いことができるようになることとする。BさんとCさんの記述から具体例を取り出す。

- ・ 著者の考え方に納得すること、他者を肯定的に捉えることができることにより、自分のマイナス感情も肯定的に捉えることの必要性を素直に感じるができる。

- ・根拠を明確にして自分の考えを書くこと、自分・周りの人と関連づけをすることにより、批判的な読み方ができるようになる。
- ・本を読み続けたこと、著者の考えに納得してきたことにより、自分の在り方を考える力が身に付いてくる。
- ・本を読み通すこと、読書日記を書くことを継続することにより、考えを整理する力が身に付く。
- ・著者の考えに納得すること、複数の理由を理解することにより、固定概念から脱却することができる。
- ・自分で理由を考えること、著者が述べている複数の理由について考えることにより、著者の文章の書き方を批評することができる。
- ・著者が述べている理由について理解すること、自分の知識・経験をもとに理由を考えることにより、著者とは異なる考えが生まれる（批判的な読み方ができる）。

「複合化」は、対象や読み方や考え方が変わるのではなく、広がることとする。

- ・人物の行動や心情について読み取ること、場面と場面を関連づけることにより、人物に対して否定的な見方・表面的な見方から肯定的な見方へ変化する。
- ・自分と異なる著者の考え方を理解すること、それらを基に自分の生活を振り返ることにより、今の自分について気付きが生まれる。
- ・著者の考えを理解すること、自分の多面性を認めることにより、自分に対する考え方が積極的になってくる。
- ・1つの言葉の意味を理解すること、複数の具体例や理由を理解することにより、言葉の意味を多面的に捉えることもできるようになる。

## ②「焦点化」「代用化」

本研究では、BさんとCさんの読書日記やその後の生活から「焦点化」と「代用化」が明確に捉えられた。

2名は、自分と重ねる（著者と自分の考え方を比較する、自分の過去を振り返ったり、今の自分を考えたりする）読み方を選び、自分の考えを述べており、「焦点化」が起きていると考えられる。

読書で身に付いた力を他の場面で活用する「代用化」も2人に起こった。Bさんは、読書で身に付けたことを水泳コーチになるという場面で活かしている。Cさんは、卒業研究において、疑問をもち、調べる力を発揮している。

以上のように、感想を書く力については、5つの法則の中の4つの法則に基づき、量的・質的評価を行うことができた。このことから、読書日記指導の評価においては、ダイナミックスキル理論を適用することが可能であると考えられる。

## （2）課題

本研究の課題は、以下の2点である。

1点目は、読書指導の評価方法をさらに改善する必要があるということである。



教員が多くの学生の文章を読み、評価する場合、学生が自己評価する場合、量的・質的評価をするとともに、簡便な評価ができるようにしていくことも求められる。そのためには、ダイナミックスキル理論の5つの法則を参考にしながら筆者が定義する読書力の示し方を改善していく必要がある。そして、継続的に用いることができ、学生にも示すことができる、評価の観点や明確な基準の作成をしていくことが必要である。

2点目は、読書日記を継続した後、長い文章（感想文）を書く指導もしていく必要があるということである。様々な授業科目では、レポートや感想文を書くことが多く、4年生になれば、卒業論文を執筆し完成させなければならない。それらの文章を書く力を育て、高めることを目指して、読書日記指導における段階的な指導が必要である。

### 【注】

1) 足立 (2019) によれば、In2Books は、「1997年にアメリカに設立された NPO でもあり、そのプロジェクトの名前でもある」(p. 121) という。足立は、2000年代前半の学級単位の取組（小学生が本を読んでボランティアの大人と手紙のやり取りをする際に学級担任が指導を行い、評価する）に注目し、「手紙を書くということを通して、どのように読書して思考しているかを評価する方法が確立していること」(p. 121) を魅力の1つだと述べている。

### 【参考文献】

- 足立幸子 (2020) 「交流を生かした読書指導：パートナー読書 In2Books の日本における試み」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第12巻第2号, pp. 121-142
- 小川洋子 (2005) 『博士の愛した数式』新潮社
- Kurt W. Fischer, Zheng Yan, Jeffrey B. Stewart (2003) Adult Cognitive Development: Dynamics in the Developmental Web in Handbook of developmental psychology カート・W・フィッシャー, ツェン・ヤン, ジェフリー・スチュアート (共著) 中川恵里子 (訳) (2008) 『成人の知的発達のダイナミクス 発達ウェブからのアプローチ』丹精社
- 加藤洋平 (2017) 『成人発達理論による能力の成長 ダイナミックスキル理論の実践的活用法』日本能率協会マネジメントセンター
- 厚生労働省編 (2018) 『保育所保育指針解説』フレーベル館
- 齋藤孝 (2015) 『読書のチカラ』大和書房
- 篠崎祐介, 鈴木美穂, 富士池優美, 北原博雄, 中田幸司 (2022) 「大学初年次生への読書指導法の探究—会話の分析を中心に—」『リメディアル教育研究』第16巻25号, pp. 169-178
- 東城大輔, 井岡瑞日, 末次有加, 深田直子, 金重利典, 高田昭夫 (2022) 「保育士・教員養成校における初年次教育のあり方について—読書カードを活用した取り組みを中心に—」『大阪総合保育大学児童保育論集』第1号, pp. 65-82
- 橋本信子 (2017) 「読書推進教育における図書館および書店との協働—流通科学大学初年次科目「文章表現Ⅱ」の取り組み—」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号, pp. 49-60
- 細恵子 (2015) 『児童の読書力を形成する「読書日記指導」の理論と実践』学位論文, 広島大学
- 細恵子 (2021) 『児童の読書力を形成する読書日記—読書指導法の改善と個の変容を目指して—』溪水社
- 細恵子 (2023) 「保育者・小学校教員養成における読書の量的・質的評価—ダイナミックスキル理論に注目して—」『国語教育思想研究』(12月刊行予定)
- 本田健 (2021) 『20代にとって大切な17のこと』きずな出版
- 牧恵子 (2015) 「愛知教育大学国語・書道専攻「初年次演習」の実践報告2014—読書指導と対話を重視して—」『教養と教育』第15号, pp. 37-45

- 峰本義明（2022）「自由読書が学生の読む力に与える影響—通年の自由読書授業の実践を通して—」『全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集』第142巻， pp. 245-248
- 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社
- 山田陽子（2013）「共通科目「読書入門」の授業研究～テキスト「星の王子さま」を通して～」『十文字学園女子大学人間生活学部紀要』第11巻， pp. 135-149